

移動可能な水洗トイレ開発

微生物の力で汚水処理

土木工事などの アルコ

土木工事などを手掛けるアルコ(本社津市藤方2254の1、中山和己社長、電話059・213・8811)は、移動可能な水洗トイレ「ミニソフイ」を開発した。微生物を多く含む土壌を介して汚水を処理し、トイレの水として再利用できる。公園や建設現場、イベント会場などの日常的な用途のほか、災害時に課題となる避難所のトイレ問題を解決する製品として自治体などへアピールしていく。今後、関東の電力系会社と連携した販売にも乗り出す方針。

(三重・梶田宏行)

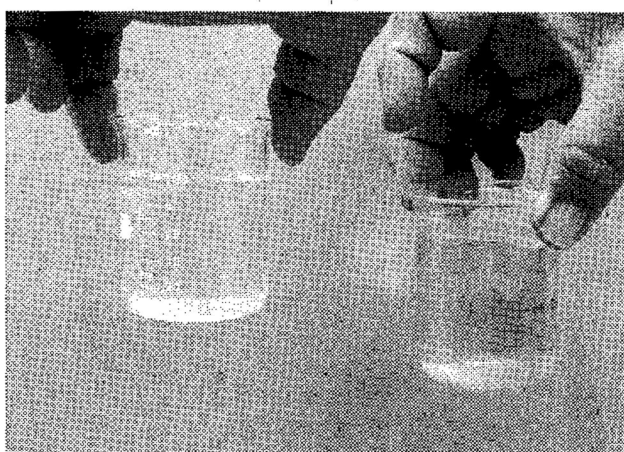


製品は、トイレの汚水を一般的な浄化槽で処理した上で、微生物を含んだ土壌

を用いた特殊なる過材(3次処理装置)で、色や臭い、その他汚濁物質を浄化。最終的に除菌器を通して極めてクリーンな処理水と同じトイレで再利用する仕組み。

み。1日50回分の汚水を透明かつ無臭の水に処理できる能力がある。特殊な維持管理は不要で、通常の浄化槽メンテナンスと同等という。価格は1基1200万円程度。

アルコ本社敷地内には、コンテナ型のミニソフイを設置し、従業員が普段使っている。サイズは幅と高さが各2・4メートル、長さ6メートルで、トレーラーで運搬することができる。トイレの便器スペースは着替え台などを設置できる広さを確保する



一般的な浄化槽で処理した水(右)は、微生物を含んだ特殊なる過材で処理する(左は処理した後の水)

ど、国交省の「快適トイレ」に準じた仕様に適合している。

アルコは、微生物土壌を活用した汚水処理システムの普及に取り組み「ソフイール協会」(事務局IIアル

コ)の会員企業を通じ、販売を展開している。また、営業強化の一環で、東京電力子会社の東京パワーテク(ロジック)本社(東京都)への販売委託を計画しており、関東地方への拡販を目指す。

東和生会長は「日本各地で災害が頻発している。ミニソフイの良さを積極的にPRし、販売につなげていきたい」と話す。同社は今秋、東京ビッグサイトで開かれる「危機管理産業展」(9月30日から10月2日まで)でミニソフイを出展する予定だ。

2004年設立。道路のり面施工など土木工業が主力。26年5月期の売上高は約25億円の見通し。従業員は約40人。

山崎ビルディング

岐阜

岐阜市柳ヶ渡
岐阜中日ビル
TEL058(2)
FAX058(2)

西濃

大垣市室本町
竹中ビル203
TEL、FAX兼
0584

三重

津市栄町4-6
津栄町三交ビル
TEL059(2)
FAX059(2)

四日市

四日市市中浜
ロイヤルマンション
TEL059(3)
FAX059(3)